

甲 7 7 の 2 (甲 7 7 の 1 の 和 訳) 文 責 : 弁 護 士 戸 田 善 恭

甲 7 6 の 1 2 0 9 頁 赤 枠 部 分

不妊手術時の若年齢が不妊手術後の後悔のリスク要因であるにもかかわらず、すべての年齢グループの大多数の女性が不妊手術を受けた決定を後悔していないことに注意することが重要である。また、他の女性は、望まない妊娠や一時的な避妊方法の副作用によって、不妊手術を受けないという決定を後悔する可能性があることもある。

2003年、WHOは避妊使用に関する医学的適格性基準のための専門家作業グループ会議でこの証拠をレビューした。専門家作業グループは、「若年齢」という条件に対して女性不妊手術に「注意」の評価を与えることを推奨した。これは、通常の設定で手術が行われるが、追加の準備と予防措置が必要であることを意味する。具体的に、推奨事項には「若い女性は、すべての女性と同様に、不妊手術の永続性と、代替となる長期的で高度に効果的な方法の利用可能性についてカウンセリングを受けるべきである」と記されている。